

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-97015

(P2004-97015A)

(43) 公開日 平成16年4月2日(2004.4.2)

(51) Int. Cl. <sup>7</sup>	F I	テーマコード (参考)
A 2 3 F 3/14	A 2 3 F 3/14	4 B O 1 7
A 2 3 F 3/18	A 2 3 F 3/18	4 B O 1 8
A 2 3 L 1/29	A 2 3 L 1/29	4 B O 2 7
A 2 3 L 2/38	A 2 3 L 2/38	C

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2002-259730 (P2002-259730)	(71) 出願人	399009055
(22) 出願日	平成14年9月5日 (2002.9.5)		松浦 一穂
			滋賀県大津市仰木の里4丁目3番4-101
		(72) 発明者	松浦 一穂
			滋賀県大津市仰木の里4丁目3番 4-101
		(72) 発明者	森岡 年彦
			京都府京都市東山区清水3-343
		Fターム(参考)	4B017 LC02 LC03 LC07 LE09 LG14 LG15 LG20 4B018 MD50 MD59 MD61 ME02 MF01 4B027 FB01 FB08 FB10 FB13 FC01 FC02 FE09

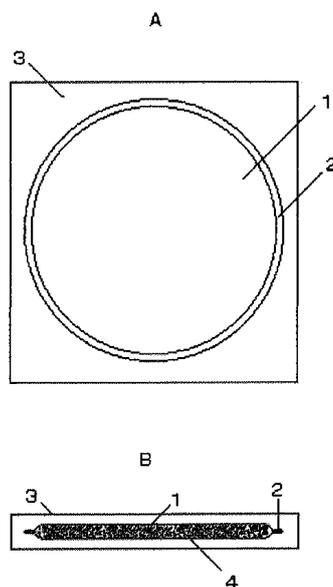
(54) 【発明の名称】 日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグおよび日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬抽出方法

(57) 【要約】

【課題】 ドリップ式コーヒー作製器で作製できるような日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグを開発し、このティーバッグを使用してドリップ式コーヒー作製器で日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬を抽出する。

【解決手段】 日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグはろ過性フィルター素材からなり、一定の範囲の粒径をもつ茶茎葉粉末を所望する量充填し、耐熱水性接着法で封入し、さらに、このティーバッグをアルミ箔製など密閉型で光を通さないパックに封入する。このティーバッグを、ミル付きでないコーヒー作製器の場合には底面に置き、ミル付きコーヒー作製器の場合には中ほどで折り曲げるか、専用の形態のティーバッグで、茶あるいは漢方薬を抽出することを可能とする。

【選択図】 図1



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

一定の範囲の粒径を持つ日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶茎葉粉末および漢方薬の一種または数種を充填して封入するフィルター素材製のバッグと、それを密閉する収納袋からなり、収納袋から取り出したティーバッグを、ドリップ式コーヒー作製器に入れ日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬を抽出する日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶茎葉および漢方薬を封入したティーバッグ。

**【請求項 2】**

請求項 1 の一定の範囲の粒径としては、 $300\ \mu\text{m} \sim 1\ \text{mm}$  の範囲の粒子が 70% 以上、 $1\ \text{mm}$  以上の粒子が 20% 以下、 $300\ \mu\text{m}$  未満の粒子が 10% 以下の分布をもつ茶茎葉を封入した日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグ。 10

**【請求項 3】**

請求項 1 および請求項 2 のティーバッグを、ドリップ式コーヒー作製器を用いて日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬を抽出することを可能とする方法。

**【発明の詳細な説明】****【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、色、味、香りのよい日本茶、中国茶、ハーブ茶および健康茶、あるいは効率よく漢方薬を、手軽に抽出することのできる日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグに関するものであり、くわしくはドリップ式コーヒー作製器で使用することのできる日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグに関するものであり、加えて本発明ティーバッグを使用して日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬を抽出することを可能とする方法に関するものである。 20

**【0002】****【従来技術】**

日本茶、中国茶、ハーブ茶あるいは健康茶は、古くから日本人、中国人に親しまれている嗜好性飲料であり、漢方薬の多くは煎じ薬として服用されている。近年では日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶が、肥満防止や健康を指向する欧米諸国の人々にも親しまれるようになってきている。漢方薬は体にやさしい薬として愛好されている。しかし、おいしいお茶や効率よく煎じ薬を作ることは、日本人や中国人にとっても容易なことではない。おいしいお茶をいれるためには、予め湯を沸かし、湯温を保ち、急須など特別な茶器などを用いる必要があるが、その準備や後片付けの作業はことのほか大変である。また、開封後の茶茎葉の防湿管理も難しく、手間のかかる作業である。漢方薬の抽出は普通沸騰してから数分～数十分間火にかけておくとせきかく抽出された成分がカスの中に戻ってしまうなどの欠点がある。 30

**【0003】**

このため、近年では特別な茶器などを必要としないティーバッグが広く用いられるようになってきた。湯のみやコップに湯を注ぎ、その中に糸やひものついたティーバッグを一定時間入れて茶を抽出した後、引き上げて茶を飲むという方式である。しかし、この方法では急須などを用いてゆっくり湯を注ぎ、茶茎葉を膨潤させ、うまみ、香りを引き出す方法と異なり、簡便ではあるもののおいしいお茶を出すことは難しい。茶茎葉の種類によっては、抽出時間が短すぎたり長すぎたりでうまく抽出できないことも多い。毎回、同じ条件で抽出する事ができにくい。漢方薬の場合も、最近タイマーのついた電気式の煎じ器もあり、マイコン制御できるものまで出ている。これなら出来上がりのばらつきを無くすることができるが、電気式漢方薬専用煎じ器では用途が限定され、非経済的である。 40

**【0004】**

一方、わが国でもコーヒーを飲むことが一般化するに伴って、自動的にコーヒーを作る機械が普及してきた。多くの機種はコーヒーミルク付きで炒ったコーヒー豆から直接コーヒーを作ることができるが、フィルター上にコーヒー粉末を入れて使用することもできる。しかし、ドリップ式コーヒー作製器を用いて、日本茶あるいは中国茶を出す発想はなく、ま 50

た現実に行われていないし、また不可能である。一般的に茶茎葉はコーヒー作製器に装着されているミルでは、全量粉末化することはできない。また、コーヒー作製器で使用できるティーバッグは見当らない。市販の日本茶用ティーバッグには糸やひもやそれを掴む紙片がついている上に、茶茎葉粉末の入っている袋は角型で小さく、コーヒー作製器で茶を抽出するには効率的な形態をしていない。このため、ドリップ式コーヒー作製器で、既存のティーバッグを用いて茶を抽出しても色は薄く適度な濃さのおいしい茶を作ることは困難である。すなわち、コーヒー作製器で使えるような日本茶あるいは中国茶ティーバッグが無いのは無論のこと、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬のティーバッグが無い上に、ドリップ式コーヒー作製器に向くティーバッグなどの発想は全く無く、それに向くティーバッグは存在しない。特に、ドリップ式コーヒー作製器で漢方薬を煎じて飲用することなどは、容易に発想できることではなく、従ってコーヒー作製器に供されるようなバッグやティーバッグは存在しないことは言うまでも無い。

10

**【0005】****【発明が解決しようとする課題】**

本発明は、上述の状況に鑑み、お茶や漢方薬を楽しんだり、飲用するために、面倒な準備が要らず、毎回、同じ条件で抽出する事ができ、また、熟練した抽出技術が要らない方法を鋭意検討した。その結果、急須など特別の茶器を用いて丁寧においしいお茶を入れたときと同様に適度な色、味および香りをもったおいしいお茶、あるいは土瓶で吹きこぼれないように注意深く煎じた漢方薬と同じように抽出できる漢方薬を、ドリップ式コーヒー作製器で作製できるような日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグを開発するものであり、加えて本発明のティーバッグを使用して日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬を抽出することを可能とする抽出方法に関するものである。今後、健康志向で欧米を中心として種々の国でますます日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶および漢方薬に人気が高まることが予測されることに鑑み、世界中で普及しているコーヒー作製器を利用して誰でも、いつでも、コーヒー作製器以外の装置や特別の道具等を必要とせず、簡単に日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶を楽しみ、漢方薬を簡単に煎じて飲むことを可能とした本発明は極めて有用である。

20

**【0006】****【課題を解決するための手段】**

本発明は上記の課題を解決するために、ティーバッグはろ過性フィルター素材からなるバッグには、所望する粒度の茶茎葉粉末および漢方薬粉末を所望する量充填し、耐熱水性接着法で封入する。さらに、このバッグをアルミ箔製など密閉型で光を通しにくいパックに封入する。このため、これまでのように茶茎葉および漢方薬の防湿管理に手間がかからない。

30

市販の日本茶ティーバッグには、湯内に入れた時、茶茎葉が袋内で踊るようにと空間が設けられているものもあるが、本発明では、茶の粒子の間を熱水がゆっくりドリップして茶成分を抽出することになるので、袋内に空間はない方がよい。

本発明では、使用時に外の光を通しにくい密閉型パックを破って、中のティーバッグを取り出し、コーヒー作製器の中に置き、用いるコーヒー作製器の使用法の指示に従って、日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬を抽出することを可能とするものである。本発明では、ティーバッグ自体がフィルターの役目を果たすため、コーヒー作製器で使用するフィルターを使用する必要がなくなり、より手軽で、より経済的でもある。

40

漢方薬の抽出の場合、土瓶を使い沸騰してから数分～数十分間火にかけておくと、長時間放置するとせっかく抽出された成分がカスの中に戻ってしまうなどの欠点があるのに対し、本法ではカスと抽出液とは分離されているので、有効成分がカスに再吸着されることはないという長所がある。

愛用している日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶のみならず、常用している漢方薬を海外に出かけるとき携帯すれば、どこのホテルにも常備されているコーヒー作製器で手軽に、安定した漢方薬を服用することができという大きな利点がある。

**【0007】**

50

**【発明の実施の形態】**

本発明に係わるティーバッグはドリップ式コーヒー作製器に収納できる大きさが望ましい。形状としては平底型コーヒー作製器には直径5～10cm程度の円形が望ましいし、ミル付きの船底型コーヒー作製器には船底の形に合わせた扇型が望ましいが、円形のティーバッグを中央で折り曲げて使用してもよい。すなわち、ティーバッグの形状はコーヒー作製器にフィットするものであればその形状は制限されるものではない。本発明に係わるティーバッグはろ過性を有するフィルター素材であれば材質は問わないが、微粉末の茶を入れても外に粒子が漏れ出さないフィルター素材を使用することが望ましい。安全性を指向した無漂白素材のものはさらに望ましい。

**【0008】**

本発明の方式では、茶茎葉の粒子の大きさが問題となる。事実、ほうじ茶で試験した結果、本発明の方式により、未粉碎の茎葉を用いた場合、色、香気、コクなどは急須で抽出した茶と比較し、通常の1人量の倍量以上の4g用いても色、香気、コクはかなり劣った（官能検査した結果、急須で丁寧に抽出した点数を100点とすると、約25点程度）。一方、本発明の方式により、300 $\mu$ m以下の微粒粒径からなる茶茎葉を用いた場合、色、香気、コクともに茎茶を急須で抽出した茶と比較し、1人量の1g用いても苦味、渋みが強く、かなり劣った（上記評価法で約70点）。望ましい粒径の範囲に入る300 $\mu$ m～1mmの範囲の粒子が約80%、1mm以上の粒子が約15%、300 $\mu$ m未満の粒子が約5%からなる茶茎葉を用いた場合、色、香気、コクとも急須で2g/人を抽出した茶より、1.5g/人の量で、色はやや優れ、香気、コクとも遜色なくいい結果が得られた（上記評価法で100点）。

10

20

**【0009】**

ウーロン茶で試験した結果、常法により未粉碎の茎葉を熱湯に入れ5分抽出した茶と、本法で同量を抽出した場合を比較すると、前者は色、香気において後者にかなり劣った（官能検査した結果、後者を100点とすると、前者は約70点程度）。

**【0010】**

漢方薬の桂枝人参湯で試験した結果、望ましい粒径の範囲に入る300 $\mu$ m～1mmの範囲の粒子が約80%、1mm以上の粒子が約15%、300 $\mu$ m未満の粒子が約5%からなる桂枝人参湯粉末を用いた場合、同じものを、一般的な方法である熱湯に15分間入れ茶こしで注いだものと比較し、色、香り、風味ともほとんど差が認められず良好な結果が得られた。

30

**【0011】**

このように、抽出対象の粉末の大きさは本発明では重要な要素で、望ましい粒径の分布は300 $\mu$ m～1mmの範囲の粒子70%以上、1mm以上の粒子が20%以下、300 $\mu$ m未満の粒子が10%以下のものがよい。充填量は規制されるものではないが望ましい1人分の量としては0.5～5gがよく、さらに望ましくは1～2gがよい。

**【0012】**

通常1ティーバッグには、1人分から5人分程度量を充填するとよいが、コーヒー作製器の種類によっては自由に充填量を変更してもよく、充填量は限定されるものではない。使用する茶の種類は、日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶それぞれの単独でもよいが、複数の日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶を、所望する比率で混合して用いてもよい。茶茎葉は安全性を指向した有機、無農薬製のものは最も望ましい。

40

漢方薬についても、単独で使用してもよいが、所望する比率で混用して用いてもよい。

**【0013】**

本発明で使用する日本茶としては、玉露、緑茶、煎茶、ほうじ茶、番茶などがあるが、これら以外の種々の茶を使用することができる。中国茶としては、中国緑茶、紅茶、烏龍茶などを含む青茶、ジャスミン茶などを含む花茶やこれら以外の茶外之茶などを使用することができる。

**【0014】**

漢方薬としては、葛根湯、乙字湯、安中散、八味丸、大柴胡湯、小柴胡湯、柴胡桂枝湯、

50

柴胡桂枝乾姜湯、柴胡加竜骨牡蠣湯、半夏瀉心湯、黄連解毒湯、半夏厚朴湯、五苓散、桂枝加朮附湯、小青竜湯、小半夏加茯苓湯、当帰芍薬散、加味逍遥散、桂枝加竜骨牡蠣湯、麻黄湯、麦門冬湯、真武湯、人参湯、大黄牡丹皮湯、四逆散、屠蘇散、半夏白朮天麻湯、六君子湯、桂枝湯、桂枝加芍薬湯、芍薬甘草湯、茯苓飲、香蘇散、四物湯、甘麦大棗湯、四君子湯、平胃散、桂枝人参湯、大黄甘草湯、神秘湯、六味丸、大防風湯、温経湯、黄連湯、桔梗湯など煎じて服用する漢方薬はもちろんのこと、散剤として服用されるものにも、本法を適用することができる。薬用効果のある種々の素材にも本発明は適用することができるほか、動物、植物、鉱物等の粉末あるいはその成分で、湯で抽出して飲用に供することのできるあらゆる対象にも適用することが可能である。

#### 【0015】

ハーブティーとしては、カモミール、レモンバーベナ、ハイビスカス、ローズ、レモンガラス、レモンバーム、マロー、ラベンダー、ローズマリー、タイム、リンデン、セージ、ジュニパー、バジル、オールスパイス、ジャスミン、シナモン、ファンネル、ウスベニアオイ、マサイ、ローレル、チコリ、ステビア、ジュニパーベリー、ミント、ヒソップ、ダンデライオン、オレンジフラワー、コーンフラワー、アルファルファ、クローブ、エルダー、キャラウェイ、サンフラワー、スイートバイオレット、オレガノ、タンポポ、マージョラム、セイボリー、ターメリック、ローゼル、メドゥスイート、マーシュマロウ、マリゴールド、ワイルドストロベリー、ヤロウ、オレンジプロッサム、ユーカリ、セルピルム、バニラビーンズ、オレンジピール、レモンピール、アップルピール、ゼラニウム等のハーブティーに本法を適用することができる。これらの使用は単独でもよいが、2種以上混用してもよい。

#### 【0016】

健康茶としては、玄米茶、昆布茶、松葉茶、エゾウコギ茶、ソバ茶、明日葉茶、グアバ茶、ユーカリ茶、ピワの葉茶、アロエ茶、ゲンノショウコ茶、センブリ茶、ウコン茶、スギナ茶、河原決明茶、ウラジロガシ茶、ドクダミ茶、ハブ茶、菊花茶、シソ茶、アマチャヅル茶、オオバコ茶、桜茶、甘茶、柿の葉茶、しょうが湯、紅花茶、サフラン茶、コンフリー茶、シイタケ茶、杜仲茶、ギムネマ茶、マテ茶、ウーロン茶、ハトムギ茶、クコ茶、ヨモギ茶、イチヨウ葉茶、玄米茶、麦茶、ウラジロガシ茶、カキオドシ茶、カミツレ茶、カリン茶、桑の葉茶、ゴボウ茶、ショウガ茶、スギナ茶、セキショウ茶、タラノキ茶、タンポポ茶、ナタマメ茶、ニワトコ茶、ネズミモチ茶、メグスリノキ茶、ユーカリ茶、羅漢果茶、緑茶とからなる群より選択された一つまたは複数の茶とが混合された健康茶に本法を適用することができる。

#### 【0017】

最外袋の素材は、アルミ箔製など空気、光、湿度を通しにくい素材が望ましい。ティーバッグが入る大きさであれば、形状は問わない。

#### 【0018】

##### 【実施例】

次に実施例を挙げて本発明を具体的に説明するが、これらの実施例は何ら本発明を制限するものではない。図1は、本発明に係わるティーバッグの一例を示す正面図である。ティーバッグは、適量の日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶およびその混合茶茎葉粉末あるいは漢方薬4を封入するバッグ本体1を、全周辺部2を耐熱水性接着法で接着してなる。これを、空気、光、水分などを通さないアルミ箔製等の密閉パック3に封入するが、この結果茶特有の香気、味、色、薬用効果は長期間保持されることになる。

#### 【0019】

##### 【発明の効果】

以上説明したように、本発明の日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグは、ドリップ式コーヒー作製器で手軽に抽出することができるので、だれでも、いつでも安定した色、味、香りのよい日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬を抽出することができるという利点がある。また、これまでコーヒー作製器で日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬を作製する発想はなかったが、ティーバッグに封入

10

20

30

40

50

する茶茎葉の粒子を所望する大きさに調整し、通常使用する量より相当量減じても、驚くことに、丁寧に急須など特別の茶器を用いておいしいお茶を入れたときと同様に適度な色、味および香りをもったおいしいお茶を、ドリップ式コーヒー作製器で作製できる。さらに、漢方薬構成素材の粒子を所望する大きさの粒子に調整して、ドリップ式コーヒー作製器で、容易に、安定した濃度の漢方薬を作製できる。

【0020】

【図面の簡単な説明】

【図1】日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグを示した正面図（A）および側面図（B）である。

【図2】日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグのドリップ式コーヒー作製器で抽出する方法を示した説明図である。 10

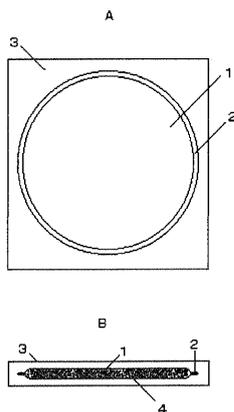
【図3】日本茶、中国茶、ハーブ茶、健康茶あるいは漢方薬ティーバッグのミル付きドリップ式コーヒー作製器で抽出する方法を示した説明図である。

【符号の説明】

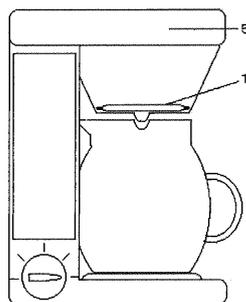
- 1 ティーバッグ
- 2 耐熱水性接着部
- 3 密閉パック
- 4 茶茎葉粉末
- 5 コーヒー作製器
- 6 ミル付きコーヒー作製器

20

【図1】



【図2】



【図3】

